令和6年度第2回嶺北地域アクションプランフォローアップ会議資料

嶺北地域アクションプランの追加・削除・拡充等 (予定項目)

嶺 北 地 域 本 部 令和7年1月29日(水)

地域アクションプランの令和7年度の追加・削除項目(案)

地域アクションプランへの支援の方向性

新規事業の掘り起こしや既存事業が抱える課題の解決を図りながら、地域アクションプランの実現に向けて、産業振興推進地域本部を中心に取り組みを推進していく。

- (1)地域アクションプランの実行支援
 - ①課題解決型アドバイザーと連携して、個別課題の解決を支援
 - ②課題一貫支援型アドバイザーと連携して、地域への経済波及効果が大きい 案件の全体的な課題の整理・分析及び解決策の検討を支援
- 拡 ③中山間地域における正規雇用の拡大を図るため、実施主体が取り組む設備 投資への支援を強化
- (2) 新たな地域アクションプランの掘り起こし
 - ①発掘支援型アドバイザーと連携して、地域アクションプランへの位置付け を目指す取り組みを掘り起こし
- 拡 ②地域おこし協力隊や起業者の情報を基に個別訪問を行うなど、 市町村や商工会等と連携した取り組みを強化

地域アクションプランの増減 R6年度 153件 → R7年度 156件 (+3)

- (1) 追加(新規): 4件
- 日高村におけるクラフトビール工房を軸にした交流人口の拡大と 地域の活性化(日高村)
- 仁淀川町「池川こんにゃく」の生産拡大による地域の活性化(仁淀川町)
- 仁淀川町の町内資源を活用したジン・ウイスキーのブランド化による 地域の活性化(仁淀川町)
- 仁淀川町アウトドアリゾートプロジェクト(仁淀川町)
- (2) 削除 (廃止): ▲ 2件
- くろしおミョウガ販売拡大プロジェクト (須崎市、中土佐町、津野町)
- 佐賀地域の資源を活用した拠点ビジネス推進(黒潮町)
- (3) 分割: 1件
- 宿毛市の地域資源を活用した観光振興(宿毛市)
- →[分割] 道の駅「すくもサニーサイドパーク」を拠点とした地域振興(宿毛市)

	R6年度 (第5期)		(R7年度 第5期Ver.2)	
	AP数		埠	計 減		AP数
	R7.1月時点	追加	削除	分割	計	APSX
安芸	20					20
物部川	19	_				19
高知市	14					14
嶺北	16					16
仁淀川	29	4			4	33
高幡	25		1		1	24
幡多	30		1	(1→2) 1		30
合計	153	4	A 2	1	3	156

L

嶺北地域アクションプラン項目(第5期計画(R6年度)と第5期計画Ver.2(R7年度)の対比表)

No.	現在(令和6年度)	本山町	大豊町	土佐町	JI
		6	7	7	4
1	本山町のブランド米を核とした地域産業の活性化	•			
2	大豊町の伝統作物の地域産業化の推進		•		
3	土佐あかうしを活用した地域産業の活性化	•	•	•	
4	土佐はちきん地鶏・大川黒牛を核とした畜産業の活性化				
5	嶺北地域の林業・木材関連産業の担い手確保による地域活性化	•	•	•	
6	嶺北地域のシソ・ユズを活用した地域産業の活性化	•			
7	れいほく野菜等の特産品を活用したビジネスの活性化			•	
8	嶺北地域で140年続く酒蔵を核とした地域活性化			•	
9	ジビエを活用したローカルビジネスの推進		•		
10	どぶろくによる「杉の大杉」エリアの活性化		•		
11	嶺北地域における広域観光の振興	•	•	•	•
12	アウトドアヴィレッジもとやまを核とした観光産業の振興	•			
13	ゆとりすとパークおおとよ・山荘梶ヶ森を核とした観光産業の振興		•		
14	山岳観光を核とした観光産業の振興				
15	さめうら湖を核とした観光産業の振興			•	
16	土佐町石原地区の地域資源を活用した地域活性化			•	

【嶺北地域】

	本山町	大豊町	土佐町	大川村	No.	改定案(令和7年度)
	6	7	7	4		
	•				1	本山町のブランド米を核とした地域産業の活性化
		•			2	大豊町の伝統作物の地域産業化の推進
	•	•	•		3	土佐あかうしを活用した地域産業の活性化
				•	4	土佐はちきん地鶏・大川黒牛を核とした畜産業の活性化
	•	•	•	•	5	嶺北地域の林業・木材関連産業の担い手確保による地域活性化
	•				6	嶺北地域のシソ・ユズを活用した地域産業の活性化
			•		7	れいほく野菜等の特産品を活用したビジネスの活性化
			•		8	嶺北地域で140年続く酒蔵を核とした地域活性化
		•			9	ジビエを活用したローカルビジネスの推進
		•			10	どぶろくによる「杉の大杉」エリアの活性化
①拡充	•	•	•	•	11	嶺北地域における広域観光の振興
②拡充	•				12	アウトドアヴィレッジもとやまを核とした観光産業の振興
③拡充		•			13	ゆとりすとパークおおとよ・山荘梶ヶ森を核 <u>に吉野川流域の観光資源を活用した周遊観光の仕組みづくり</u>
				•	14	山岳観光を核とした観光産業の振興
④拡充			•		15	さめうら湖を核とした観光産業の振興
			•		16	土佐町石原地区の地域資源を活用した地域活性化
						·

嶺北地域アクションプランの追加・削除・拡充等(予定項目)

■追加

なし

■削除

なし

■その他(拡充、統合、分割等)

NO.	■での個版が、Mac、別割等) NO. アクションプラン名 見直しする内容						
NO.							
	No.11 嶺北地域における広域観光の振興	【拡充】					
	(嶺北地域全域)	若者の雇用の確保につなげるため、嶺北地域全域					
1	【実施主体】(一社)土佐れいほく観光協議	における各施設の集客及び売上増につながる取					
	会、本山町、大豊町、土佐町、大川村	り組みを支援する内容に拡充する。					
	No. 12 アウトドアヴィレッジもとやまを	【拡充】					
	核とした観光産業の振興(本山町)	若者の雇用の確保につなげるため、アウトドアヴ					
2	【実施主体】本山町、民間事業者	ィレッジもとやまを核とした周遊プランや閑散					
		期向けの商品造成により、集客及び売上増につな					
		がる内容に拡充する。					
	No.13 ゆとりすとパークおおとよ・山荘梶	【拡充】					
	ヶ森を核とした観光産業の振興(大豊町)	若者の雇用の確保につなげるため、ゆとりすとパ					
	【実施主体】大豊町、指定管理者	一クおおとよ及び山荘梶ヶ森の両施設において、					
		ポテンシャルを生かした観光コンテンツを造成					
3		し、集客及び売上増を図るとともに、両施設を核					
		に吉野川流域の見所ある観光資源を活用した周					
		遊観光を促進する内容に拡充する。また、吉野川					
		流域の周遊観光を促進するにあたり、実施主体に					
		「民間事業者等」を追加する。					
	No.15 さめうら湖を核とした観光産業の	【拡充】					
	振興(土佐町)	若者の雇用の確保につなげるため、さめうら荘周					
4	【実施主体】土佐町、民間事業者等	辺の魅力ある自然体験プログラム商品のさらな					
		る造成等により、集客及び売上増につながる内容					
		に拡充する。					

修正前

嶺北地域アクションプラン	分野	農業
100-10-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-	/-//	灰灰

		EX.			
AP 名 (実施地域)	No.4 土佐はちきん地鶏・大川黒牛を核とした畜産業の (大川村)	活性化			
実施主体	◎ (株)むらびと本舗、◎ (一社)大川村ふるさとむら公社、大川村				
AP への位置づけ	H21.4 月				
事業概要	大川村の基幹産業である畜産の振興により地域の活性 得の向上につなげる。	∈化を図り、雇	用の確保、所		

→ +> Fall % □ 7.	これまでの主な動き	
主な取り組み	取り組みの内容	主な成果・課題
【大川黒牛】生産体制の強化	・肥育牛舎(150 頭規模)の整備(H27) ・黒牛増殖基金の設立(R元) ・巡回指導等による技術支援 ・繁殖、肥育牛舎の増築(R5~) ・**** ・**** ・*** ・** ・大川村プロジェクト産業振興部会の立ち上げ(H26~)	[成果] ◆黒牛飼養頭数 R2 繁殖牛: 53 頭 肥育牛: 103 頭 R3 繁殖牛: 52 頭 肥育牛: 117 頭 R4 繁殖牛: 51 頭 肥育牛: 84 頭 ◆黒牛年間出荷頭数 R2: 60 頭 R3: 55 頭
はちさん地鶏」経宮改善・販路拡大	・大川村ノロシェクト産業振興部会の立ち上げ (H26~) ・鶏舎の整備 (4 万羽規模) (H28) ・食鳥処理施設の整備 (H29) → 地方創生推進交付金、産振補助金の活用 ・食鳥処理事業の専門的知識を有する外部専門人材の導入(R元) → 産振補助金の活用 ・専門家による経営分析及び経営改善計画策定 (R2) → 産振補助金の活用 ・販売量に見合った生産規模の適正化、販売戦略の見直し (R2~R4) → 産振アドバイザー制度の活用 ・営業職員の雇用 (H30~) ・生産施設 (育成舎 3 棟分) において自動給餌器等整備 (R2) → 新型コロナウイルス感染症対策産業振興推進特別支援事業費 補助金を活用 ・はちきん地鶏事業再建チーム会議 (R3~R4 計 2 回) ・はちきん地鶏事業経営改善会議 (R3~R4 計 4 回)	R4:53 頭 ◆はちきん地鶏販売額 R元:115,168 千円 R4:126,733 千円 [課題] ◆大川黒牛 ・繁殖雌牛の高齢化による将来的な出荷頭数の減 ◆はちきん地鶏 ・収支バランスを確保しつつ生産規模を拡大できる体制の構築 ・食鳥処理施設の人手不足に伴う外部委託増による収支悪化

+ 15.4≡	.II.5%.±		目標		
指標	出発点	R6	R7	R8	R9
(1)黒牛の販売額	6,815 万円 (R4)				7,800 万円
(2)はちきん地鶏販売額	1億 2,673万円 (R4)				1.8 億円

第5期計画における行程表							
事業概要	R6	R7	R8	R9			
【大川黒牛】生産体制の強化	1			 			
■(株)むらびと本舗	!		! !	! !			
・繁殖牛、肥育牛の増頭、増殖基金の活用		牛舎	増築				
・後継者人材の獲得							
■大川村			i	i			
・牛舎の増築(年 65 頭程度の出荷を維持できるような繁殖雌牛・肥育牛	音	音産物の PI	R·販路拡大				
の増頭)、各種事業(増殖基金等)による経営支援				!			
・「まるごと大川」ブランディング推進事業による畜産物の PR、販路拡大	\//\						
□県(地域本部、家畜保健衛生所等)	<u>巡</u>	四指導等に	よる技術支持	发			
・PDCA サイクルによる目標達成に向けた進捗管理等	 		 	I I I			
・巡回指導等による技術支援	 	 	 	! ! ! !			
【土佐はちきん地鶏】食鳥処理施設の安定運営と収支改善および販							
路拡大	鶏の安	定生産・鶏	舎の整備検	討			
■ (株)むらびと本舗	外国人						
・飼養管理技術の向上、鶏の安定生産	技能実	食鳥処理	施設の安定運	営·			
■(一社)大川村ふるさとむら公社	習生受	設備	導入の検討				
・食鳥処理施設の人材確保(外国人技能実習生の受け入れ)			!				
・事業支出の圧縮による収支改善	支出の						
・適正な販売価格の設定、利益率の高い加工品の営業強化	見直し						
・食鳥処理施設の設備導入の検討		収支改	善・単年度黒	字化			
■大川村	適正価 格の設						
・関係機関との協議(大川村プロジェクト等)による経営改善支援	危の設定						
・「まるごと大川」ブランディング推進事業による畜産物の PR、販路拡大							
・鶏舎・食鳥処理施設の設備導入の検討		営業強化・					
□県(地域本部、家畜保健衛生所等)	!	日来近10		!			
・PDCA サイクルによる目標達成に向けた進捗管理等							
・関係機関と連携した協議(大川村プロジェクト等)による経営改善支援	ĭ	巡回指導等に	よる技術支援				
・販路開拓等の支援	1			1 1 1			
・巡回指導等による技術支援	 			1 1 1 1			
	1 1 1		 	1 1 1			

,



嶺北地域アクションプラ	ラン		分野	農業
AP名	No.4	十佐はちきん地鶏・大川黒牛を核とした畜産業の)活性化	

AP 名 (実施地域)	No.4 土佐はちきん地鶏・大川黒牛を核とした畜産業の活性化 (大川村)
実施主体	◎ (株)むらびと本舗、◎ (一社)大川村ふるさとむら公社、大川村
AP への位置づけ	H21.4 月
事業概要	大川村の基幹産業である畜産の振興により地域の活性化を図り、雇用の確保、所得の向上につなげる。

	これまでの主な動き	
主な取り組み	取り組みの内容	主な成果・課題
【大川黒牛】生産体 制の強化	・肥育牛舎(150 頭規模)の整備(H27) ・黒牛増殖基金の設立(R元) ・巡回指導等による技術支援 ・繁殖、肥育牛舎の増築(R5~) ・「まるごと大川」ブランディング推進事業による畜産物の PR・販路拡大 (R3~)	1
	・大川村プロジェクト産業振興部会の立ち上げ(H26~) ・鶏舎の整備(4万羽規模)(H28) ・食鳥処理施設の整備(H29) → 地方創生推進交付金、産振補助金の活用 ・食鳥処理事業の専門的知識を有する外部専門人材の導入(R元) → 産振補助金の活用 ・専門家による経営分析及び経営改善計画策定(R2) → 産振補助金の活用 ・販売量に見合った生産規模の適正化、販売戦略の見直し(R2~R4)→ 産振アドバイザー制度の活用 ・営業職員の雇用(H30~) ・生産施設(育成舎3棟分)において自動給餌器等整備(R2) → 新型コロナウイルス感染症対策産業振興推進特別支援事業費補助金を活用 ・はちきん地鶏事業経営改善会議(R3~R4計4回) ・はちきん地鶏事業再建チーム会議(R3~R6計4回) ・食鳥処理施設の人材確保(外国人技能実習生の受け入れ)(R6)	【課題】 ◆大川黒牛 ・繁殖雌牛の高齢化による将来的な出荷頭数の減 ◆はちきん地鶏 ・収支バランスを確保しつ つ生産規模を拡大できる体制の構築 ・食鳥処理施設の人手不足に伴う外部委託増による収支悪化 ・営業力の強化

松塘	1115%-1=		実績		目標
指標	出発点	R6	R7	R8	R9
(1)黒牛の販売額	6,815 万円 (R4)				7,800 万円
(2)はちきん地鶏販売額	1 億 2,673 万円 (R4)				1.8 億円

第5期計画における行程表				
事業概要	R6	R7	R8	R9
【大川黒牛】生産体制の強化		1 1 1		
■(株)むらびと本舗		i !	i !	<u> </u>
・繁殖牛、肥育牛の増頭、増殖基金の活用		牛舎	改修	
・後継者人材の獲得		 	<u> </u>	
■大川村		i	i	
・牛舎の <u>改修</u> (年 60 頭程度の出荷を維持できるような繁殖雌牛・肥育牛	ì	畜産物の PI	R·販路拡大	
の増頭)、各種事業(増殖基金等)による経営支援		! !		
・「まるごと大川」ブランディング推進事業による畜産物の PR、販路拡大	\JIII	口化送效厂	-	
□県(地域本部、家畜保健衛生所等)	7[[[四指導寺に	よる技術支持	麦
・PDCA サイクルによる目標達成に向けた進捗管理等		! !		
・巡回指導等による技術支援		! ! !		<u>.</u>
【土佐はちきん地鶏】食鳥処理施設の安定運営と収支改善および販				
路拡大	鶏の安	定生産・鶏	舎の整備検	討
■ (株)むらびと本舗	外国人			
・飼養管理技術の向上、鶏の安定生産	技能実	食鳥処理	施設の安定選	営・
■(一社)大川村ふるさとむら公社	習生受入	設備	導入の検討	
・食鳥処理施設の人材確保(外国人技能実習生の受け入れ)			!	
・事業支出の圧縮による収支改善	支出の			
・適正な販売価格の設定、利益率の高い加工品の営業強化	見直し	1		
・食鳥処理施設の設備導入の検討		収支改	善·単年度黒	字化
■大川村	適正価 格の設	!		
・関係機関との協議(大川村プロジェクト等)による経営改善支援	定	1		
・「まるごと大川」ブランディング推進事業による畜産物の PR、販路拡大				
・鶏舎・食鳥処理施設の設備導入の検討		堂業強化.	販路拡大	
□県(地域本部、家畜保健衛生所等)			NABISIAN C	
・PDCA サイクルによる目標達成に向けた進捗管理等				
・関係機関と連携した協議(大川村プロジェクト等)による経営改善支援	ì	巡回指導等に	よる技術支援	
・販路開拓等の支援		I I	1	!
・巡回指導等による技術支援		! ! !	!	1
		! ! !		

ᄃ

修正前

嶺北地域アクションプラン 観光

AP 名 (実施地域)	No.11 嶺北地域における広域観光の振興 (嶺北地域全域)		
実施主体	 ◎ (一社)土佐れいほ〈観光協議会、本山町、大豊町、土作 	左町、大川村	†
AP への位置づけ	H21.4 月		
事業概要	(一社)土佐れいほく観光協議会を中心に、嶺北地域のなどの多様な地域資源を生かした、訴求力のある旅行商品ーゲットに応じた的確な情報発信等マーケティング活動を強しての知名度を高め交流人口の拡大を図ることで、観光産経済の活性化を目指す。	品の造成を進ん 化し、嶺北地	めるとともに、タ !域の観光地と

→+\Fa\407.	これまでの主な動き	
主な取り組み	取り組みの内容	主な成果・課題
国内外の教育旅行の 誘致推進及び受入促 進	・教育旅行における旅行会社やラフティング会社からの問い合わせ対応、行程表作成、手配等の実施 ・教育旅行で需要の多い民泊家庭数がコロナ禍、高齢化等の影響により減少(R3:59 → R5:47) → 救命救急や衛生面などの安全面強化のための研修等の支援 ・大手旅行会社へのセールスを強化し教育旅行を誘致	「成果」 ・教育旅行の誘致校数 R3:92校 R4:123校 ・れいほくクーポンの効果 (宿泊者数) R元:23,512人
宿泊旅行の誘客推進	・Instagram、Facebook、Xを活用し、県内外にれいほく地域の認知度を高め観光客等を増やすための情報発信 ・アナログメディアを活用した情報発信(テレビ、新聞、ラジオ等) ・OTA を活用した情報発信 → 予約のオンライン化を推進し県内外にれいほく地域の認知度アップ	R4:27,897人 ・OTA 登録施設数(活用商品数) R3:43 施設(115件) R5:43 施設(127件) ・「れいほくる。」参加事業者数(参加者数) R4:8 事業者(94人)
日帰り旅行の誘客推進	・新たな体験事業者のスタートアップや既存事業者のプログラム創出を 支援(R4〜)→土佐れいほく観光協議会補助金制度の活用(5 件) ・れいほく体験博覧会「れいほくる。」の開催(R4〜) ・大手旅行会社へのセールスを強化しバスツアーを誘致	R5:13 事業者(73 人) ・ツアー集客件数(人数) R3:35 件(646 人) R5:79 件(2,200 人) ・SNS 発信数(月平均) R3:77 件 R5:121 件
周遊促進の仕組みづくり	 ・宿泊者に翌日遊べるコンテンツの情報提供(R3~4) →「あす遊ぼ!」を発刊し、宿泊施設内に設置 ・宿泊者に翌日食べるコンテンツの情報提供(R4~) →「あす食べよう Book」を発刊し、宿泊施設内に設置 ・あかうし街道スタンプラリーによる飲食店舗の周遊促進(R3~) ・れいほくクーポン(誘客促進助成制度)の実施(R3~5) 	[課題] ・拠点施設の魅力が十分 伝わっていない ・魅力ある体験プログラム が少ない
DMO としてのマーケ ティング機能の発揮	・エリア満足度調査の実施 ・デジタルデータの活用による打ち手構築	・エリア全体への周遊につ ながっていない

七冊	ılı ₹%. L E		実績		目標
指標	出発点	R6	R7	R8	R9
(1)主要観光施設の 入込数	385,343 人 (R5 見込)				429,420 人
(2)主要宿泊施設の 宿泊者数	27,582 人 (R5 見込)				35,300 人
(3)主要観光•宿泊施設 消費額	512,436 千円 (R5 見込)				715,995 千円

事業概要	R6	R7	R8	R9
国内外の教育旅行の誘致推進及び受入促進			!	i
■(一社)土佐れいほく観光協議会	実績のある	他団体との追	護・誘致の促	進
・セールスの強化	TT 6500 1= 1			TT
・他組織との連携強化			D開拓及び支払	
・受入家庭確保のための支援強化				i
・地域初の新たなプログラム開発支援	ニーズを捉	えた新たなプロ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ログラム開発支	援
□県(地域本部等):補助事業、アドバイザー派遣の支援等 (以下同じ)		<u> </u>	<u> </u>	i !
宿泊旅行の誘客推進		1	1	I I
■(一社)土佐れいほく観光協議会	シーズンご	とのキャンペー	ン実施	
・キャンペーンの実施・推進				i !
・キャンプ利用の推進	れいほくの	自然を活かした	きキャンプ場利	用促進
・SNS での PR 強化・認知度の向上		1	 	
・宿泊施設の OTA・SNS 活用支援		!	!	!
	キャンペーン	ンと連動した S	NS での PR !	強化·誘翟
			i 	i ! !
日帰り旅行の誘客推進	由小旅行≤	- 会社へのセール	ス強化	
■(一社)土佐れいほく観光協議会	団体バスツ			
・セールスの強化		, mar	į.	
・地域主催のイベント PR	補助全制的	きを活用したな	- 本験プログラム:	創 出支援
・新たな体験事業者やプログラムの創出支援	1m20131210113	<u> </u>		ы ш Д м
・体験プログラムの PR 強化	体験博「れ	いほくる。」開催	¥	
		<u> </u>		
周遊促進の仕組みづくり	「ちず焼ば」	しにちす金が	・ よう」Book 等	の批本
■(一社)土佐れいほく観光協議会	一の9座は	! 」の9長へ	よう]BOOK 寺	の扱で
・宿泊者に翌日遊べるコンテンツの情報提供				
・宿泊者に翌日食べるコンテンツの情報提供	翌日買える	らコンテンツ紹 <i>う</i>	1	
・宿泊者に翌日買うコンテンツの情報提供	ナカミ 生	************************************	ゲの主揺	
・スタンプラリーによる飲食店舗の周遊促進支援	あかつし街は	道スタンプラリ	一等の文援	
DMO としてのマーケティング機能の発揮	-11244	ウヨオのハ		
■(一社)土佐れいほく観光協議会	エリア満足	度調宜の分析 	f・フィードバック -	
・エリア満足度調査の継続的な実施	デジタルデ-	— ク等を活用L	た分析による	
・資源の再整理・魅力化推進	打ち手の構			
・デジタルデータの活用による打ち手構築				



領北地域アクションプラン 観光

AP 名 (実施地域)	No.11 嶺北地域における広域観光の振興 (嶺北地域全域)		
実施主体	◎ (一社)土佐れいほ〈観光協議会、本山町、大豊町、土	佐町、大川村	t
AP への位置づけ	H21.4 月		
事業概要	(一社)土佐れいほく観光協議会を中心に、嶺北地域のなどの多様な地域資源を生かした、訴求力のある旅行商品ーゲットに応じた的確な情報発信等マーケティング活動を強しての知名度を高め交流人口の拡大を図ることで、観光産経済の活性化を目指す。	品の造成を進 な化し、嶺北地	めるとともに、タ はの観光地と

- N-10017	これまでの主な動き	
主な取り組み	取り組みの内容	主な成果・課題
宿泊旅行の誘客推進	・Instagram、Facebook、Xを活用し、県内外にれいほく地域の認知度を高め観光客等を増やすための情報発信 ・アナログメディアを活用した情報発信(テレビ、新聞、ラジオ等) ・OTA を活用した情報発信 ・春の「体験博覧会れいほくる。」にて宿泊優待券を配布(R6)	「成果」 ・教育旅行の誘致校数 R3:92校 R4:123校 ・れいほくクーポンの効果 (宿泊者数)
日帰り旅行の誘客推進	・新たな体験事業者のスタートアップや既存事業者のプログラム創出を支援(R4~)→土佐れいほく観光協議会補助金制度の活用(5 件) ・れいほく体験博覧会「れいほくる。」の開催(R4~) ・大手旅行会社へのセールスを強化しバスツアーを誘致 ・インフラツーリズム(早明浦ダム見学)の実施(R5~) ・「土佐の豊穣祭 in 嶺北」の運営事務局となる(R6~)	R元:23,512人 R4:27,897人 ・OTA 登録施設数(活用商品数) R3:43 施設(115件) R5:43 施設(127件) ・「れいほくる。」参加事業 者数(参加者数)
国内外の教育旅行の	・教育旅行における旅行会社やラフティング会社からの問い合わせ対	R4:8 事業者(94 人)
誘致推進及び受入促	応、行程表作成、手配等の実施	R5:13 事業者(73 人)
進	・教育旅行で需要の多い民泊家庭数がコロナ禍、高齢化等の影響により減少 (R3:59 → R5:47) → 救命救急や衛生面などの安全面強化のための研修等の支援 ・大手旅行会社へのセールスを強化し教育旅行を誘致 ・(一社)そらの郷、(公社)日本観光振興協会との連携により海外(台湾、豪州)からの教育旅行を誘致 (R6)	・ツアー集客件数(人数) R3:35 件(646人) R5:79 件(2,200人) ・SNS 発信数(月平均) R3:77 件 R5:121 件
周遊促進の仕組みづくり	 ・宿泊者に翌日遊べるコンテンツの情報提供(R3~4) →「あす遊ぼ!」を発刊し、宿泊施設内に設置 ・宿泊者に翌日食べるコンテンツの情報提供(R4~) →「あす食べよう Book」を発刊し、宿泊施設内に設置 ・あかうし街道スタンプラリーによる飲食店舗の周遊促進(R3~) ・れいほくクーポン(誘客促進助成制度)の実施(R3~5) 	「課題] ・拠点施設の魅力が十分 伝わっていない ・魅力ある体験プログラム が少ない
DMO としてのマーケ ティング機能の発揮	・エリア満足度調査の実施 ・デジタルデータの活用による打ち手構築	・エリア全体への周遊につ ながっていない

北海	ılı 5% ≟=		実績		目標
指標	出発点	R6	R7	R8	R9
(1)主要観光施設の 入込数	385,343 人 (R5 見込)				429,420 人
(2)主要宿泊施設の 宿泊者数	27,582 人 (R5 見込)				35,300 人
(3)主要観光·宿泊施設 消費額	512,436 千円 (R5 見込)				715,995 千円

第5期計画における行程表	Ę			
	R6	R7	R8	R9
宿泊旅行の誘客推進	夕 翻 兴 旃	段の磨き上げ		
■ (一社)土佐れいほく観光協議会、 <u>各町村</u>				
・各観光施設の磨き上げによる魅力度の向上	<u>シーズン展開</u>	を見据えたイベ	ントの開催	
(モンベルの体験メニュー、ゆとりすとの雲海、ダムインフラツーリズムなど)	(春の花、夏の	のアクティビティ、秒	の食、冬の雲海な	<u>:E)</u>
・シーズン展開を見据えたイベントの開催	CNC 50	ᇚᆇᄼ		
<u>·SNS での PR 強化</u>	SNS での	<u>PK 独化</u>	·	
日帰り旅行の誘客推進		i ! !	i 1 1	i ! !
■ (一社)土佐れいほく観光協議会、 <mark>各町村</mark>	体験博覧会	会や土佐の豊富	穣祭などイベン	小の開催
・わざわざ嶺北に来る仕掛けづくり		! !	! !	
→体験博覧会「れいほくる。」や「土佐の豊穣祭 in 嶺北」などの魅力あるイベ	体験プログ	ラムの開発・原	<u>き上げ</u>	
ントの開催	1	I I	!	!
→さめうら湖やアウトドア拠点施設等を活用した嶺北ならではの体験プログラ	PR、セール	スの強化		,
<u>ムの開発・磨き上げ</u>			団体バスツアー説	客など)
・PR、セールスの強化		i		
国内外の教育旅行の誘致推進及び受入促進	i !	i !	i !	i ! !
■(一社)土佐れいほく観光協議会	研修等によ	る受入家庭の)開拓及び支援	爰
・セールスの強化	! !	!	! !	<u>~</u> !
・他組織との連携強化	中生のナス	 	:## =##LO!#	\.
・受入家庭確保のための支援強化		1	携・誘致の推	進
・新たなプログラム開発支援		! !	1	1
□県(地域本部等):補助事業、アドバイザー派遣の支援等(以下同じ)	ニーズを捉	えた新たなプ[-	コグラム開発支	援
	I I I	1 1 1	1 1 1	1
周遊促進の仕組みづくり	F			
■(一社)土佐れいほく観光協議会	一あず遊は	! 」」あず食べ。	tうJBook 等	の拡充
・宿泊者に翌日(遊べる、食べる、買う) コンテンツの情報提供	i	i	i	i
・スタンプラリーによる飲食店舗の周遊促進支援	翌日買える	コンテンツ紹介	7	
・近隣地域(仁淀川エリア、徳島県三好エリア、愛媛県西条市など)と連携				
<u>した情報発信</u>	近隣地域と	連携した情報	発信	
DMO としてのマーケティング機能の発揮	-1	÷		
■(一社)土佐れいほく観光協議会	エリア満足	度調査の分析	・フィードバック	7
・エリア満足度調査の分析、フィードバック				- 144 feb
・デジタルデータ等を活用した分析による打ち手構築	テジタルデータ	タ等を活用したタ	分析による打ちす	Fの構築

修正項目(案)

修正前

嶺北地域アクションプラン 観光

		73 23	性ルノロ
AP 名 (実施地域)	No.12 アウトドアヴィレッジもとやまを核とした観光産業(本山町)	の振興	
実施主体	◎本山町、◎民間事業者		
AP への位置づけ	H28.4月		
事業概要	アウトドア拠点施設(アウトドアヴィレッジもとやま)を核と 自然や食、歴史、文化等を活用した魅力ある体験プログラ とで、地域への誘客を促進し、交流人口の拡大による地域は	ム造成し全国	国に発信するこ

主な取り組み 取り組みの内容 主な成果・課題 では、
(アウトドアヴィレッジ もとやま)の運営・誘客 : アウトドア拠点施設(ビジターセンター、個人・団体宿泊棟、飲食施設、温浴施設)の整備(H28~R元) : アウトドア拠点施設の指定管理者決定(H30) : 白髪山八反奈路への新たな登山道の整備(H30) : アウトドア拠点施設のオープン(R元.7) : アウトドア拠点施設のオープン(R元.7) : アウトドアインストラクター養成講座の実施(H28~) : 県内旅行会社・学校等への営業活動の実施(R2) : 防災学習や地域学習など多様なニーズに対応した修学旅行の受け入れ(R3) : 旅行会社・教育関係者向けモニターツアー、アンケート調査等の実施(R4) : 町内への経済的波及気限の創出 : ガイドスキルを持った人材
・効果的な情報発信・営業活動

+12.1==	ப் 5% – E		実績		目標
指標	出発点	R6 R7 R8		R8	R9
アウトドアヴィレッジもとやま の利用者数	51,191 人 (R4)		 	 	58,000 人





嶺北地域アクションプ	ラン	分野	観光
AP 名 (実施地域)	No.12 アウトドアヴィレッジもとやまを核とした観光産業 (本山町)	の振興	
実施主体	◎本山町、◎民間事業者		
AP への位置づけ	H28.4 月		
事業概要	地域ならではの豊かな自然や食、歴史、文化等を活用造成や閑散期対策を強化するとともに、「アウトドアヴィレッションで、若者が魅力を感じる雇用の受けるに、こうした取り組みを通じて、地域への誘客を促進し域経済の活性化を図る。	だいま」に売 受け皿を整備 [*]	<u>E上が集約でき</u> する。

	これまでの主な動き	
主な取り組み	取り組みの内容	主な成果・課題
アウトドア拠点施設(アウトドアヴィレッジもとやま)の運営・誘客	・高知・本山アウトドアの里づくり推進協議会の開催(H28~) ・アウトドア拠点施設(ビジターセンター、個人・団体宿泊棟、飲食施設、温浴施設)の整備(H28~R 元) ・アウトドア拠点施設の指定管理者決定(H30) ・白髪山八反奈路への新たな登山道の整備(H30) ・アウトドア拠点施設のオープン(R 元.7) ・アウトドアインストラクター養成講座の実施(H28~) ・県内旅行会社・学校等への営業活動の実施(R2) ・防災学習や地域学習など多様なニーズに対応した修学旅行の受け入れ(R3) ・旅行会社・教育関係者向けモニターツアー、アンケート調査等の実施(R4) ・モンベルフレンドフェア in 本山の開催(R4)	養成講座の受講者数 (登山ガイド、リバーガイド 等) 110回延べ725人 (H28~R5) 「課題」 ・閑散期対策

₩.I.E.	111576.1=	実績			目標
指標	出発点	R6	R7	R8	R9
(1)アウトドアヴィレッジもと やまの利用者数	51,191人 (R4)		1 1 1 1 1 1 1 1		58,000 人
(2)アウトドアヴィレッジもと やまの売上高増	=		1 1 1 1 1 1 1 1		25,000 千円
(3)アウトドアヴィレッジもと やまの雇用創出数	=				<u>2人</u>



(

修正項目(案)

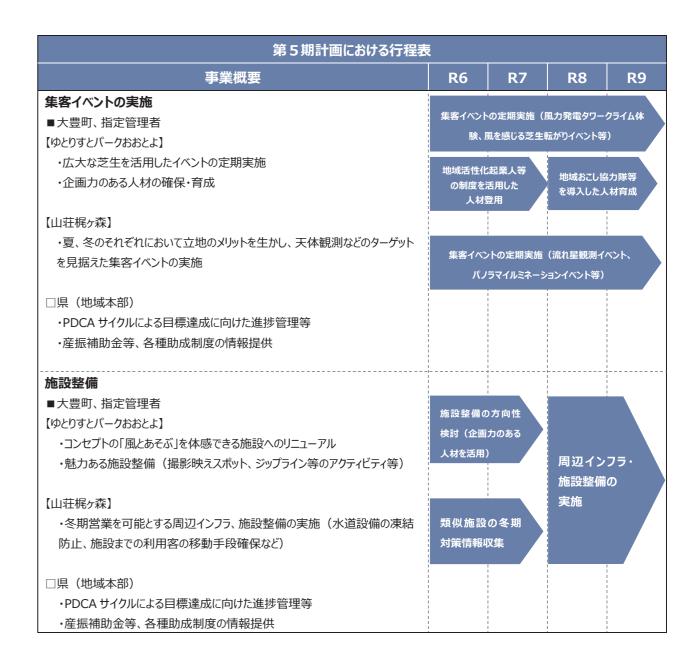
修正前

嶺北地域アクションプラン 観光

DK-10-0		カギ	性ルノロ
AP 名 (実施地域)	No.13 ゆとりすとパークおおとよ・山荘梶ヶ森を核とした (大豊町)	観光産業の扱	長興
実施主体	◎大豊町、◎指定管理者		
AP への位置づけ	R6.4月		
事業概要	大豊町の2大観光施設である「ゆとりすとパークおおとよ施設がポテンシャルを生かした観光コンテンツを造成するなり、交流人口の拡大を目指す。		

→ + \ ₩- / \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	これまでの主な動き	
主な取り組み	取り組みの内容	主な成果・課題
集客促進	【ゆとりすとパークおおとよ】 ・ジビエグルメフェスタ等の大規模イベントの実施(H24~R元) ・各種イベントの誘致(R4~) 【山荘梶ヶ森】 ・トレッキングツアーガイド養成講座の実施(R2~) ・トレッキングツアー、星空観察会などのイベント実施(R3~)	 【成果】 (ゆとりすとパーク) ・集客イベント実施 R5:5回 (山荘梶ヶ森) ・冬季営業日数 R5:3日間 (R6.1.1~1.3)
施設の魅力向上	【ゆとりすとパークおおとよ】 ・コテージ、ログハウス、キャンプ場等の施設の魅力化(R 元~R3) → 観光拠点等整備事業費補助金の活用 ・子ども向け遊具のリニューアル(R4) 【山荘梶ヶ森】 ・県立自然公園を生かした登山道の整備(R 元~) ・施設改修工事の実施(寒冷地対策)(R4)	[課題] (ゆとりすとパークおおとよ) ・集客力が弱い ・企画力のある人材確保 ・施設の魅力化 (山荘梶ヶ森) ・閑散期対策(冬期) ・施設の魅力化

松柵	1115%_E	実績			目標
指標	出発点	R6	R7	R8	R9
(1)ゆとりすとパークおおとよ 入込数 (入場者+宿泊者)	23,321 人 (R4)				27,000 人
(2)山荘梶ヶ森宿泊者数	1,133 人 (R4)				1,300 人





嶺北地域アクションプラ	ラン	分野	観光
AP 名 (実施地域)	No.13 ゆとりすとパークおおとよ・山荘梶ヶ森を核 <u>に吉</u> 用した周遊観光の仕組みづくり (大豊町)	野川流域の	観光資源を活
実施主体	◎大豊町、◎指定管理者、 <u>◎民間事業者等</u>		
AP への位置づけ	R6.4月		
事業概要	大豊町の2大観光施設である「ゆとりすとパークおおとよ施設がポテンシャルを生かした観光コンテンツを造成するなる。また、両施設を核に、吉野川流域の見所ある観光資産し売上増を進め、若者が魅力を感じる雇用の受け皿とし	- ど、両施設の <u>原を活用した</u>	再活性化を図

→ ₩ - ₩603.	これまでの主な動き	までの主な動き			
主な取り組み	取り組みの内容	主な成果・課題			
集客促進施設の魅力向上	【ゆとりすとパークおおとよ】 ・ジビエグルメフェスタ等の大規模イベントの実施(H24~R元) ・各種イベントの誘致(R4~) 【復活!連休まつり(昭和レトロな遊びを楽しむイベント)」(R6) 「子供まつり(昔遊びやゲームを楽しむイベント)」(R6) 「ランクルズ ZEKKEICAMP」(R6) 【山荘梶ヶ森】 ・トレッキングツアーガイド養成講座の実施(R2~) ・トレッキングツアー、星空観察会などのイベント実施(R3~) ・趣向を凝らした新規イベントの実施(R6) 「山頂わら焼き体験」(4月) 「梶ヶ森フォトコンテスト」(7~8月)など 【ゆとりすとパークおおとよ】 ・コテージ、ログハウス、キャンプ場等の施設の魅力化(R元~R3) → 観光拠点等整備事業費補助金の活用 ・子ども向け遊具のリニューアル(R4) 【山荘梶ヶ森】 ・県立自然公園を生かした登山道の整備(R元~) ・施設改修工事の実施(寒冷地対策)(R4)	「成果」 (ゆとりすとパーク) ・集客イベント実施 R5:5回 (山荘梶ヶ森) ・冬季営業日数 R5:3日間 (R6.1.1~1.3) 「課題] (ゆとりすとパークおおとよ) ・集客力が弱い ・企画力のある人材確保 ・施設の魅力化 (山荘梶ヶ森) ・閑散期対策(冬期) ・施設の魅力化			
吉野川流域の周遊観 光の促進					
		! !			

			目標		
指標	出発点	R6	R7	R8	R9
(1)ゆとりすとパークおおとよ 入込数 (入場者+宿泊者)	23,321 人 (R4)				27,000 人
(2)山荘梶ヶ森宿泊者数	1,133 人 (R4)				1,300 人
(3)売上高増(2 施設計)	_				25,000 千円
(4)雇用創出数 (2 施設計)	_				2人

第5期計画における行程表						
事業概要	R6	R7	R8	R9		
集客イベントの実施	1 1 1	オートバイ	1 1 1	 		
■大豊町、指定管理者	 	<u>神社の設</u> 置・レスト				
【ゆとりすとパークおおとよ】	i !	ランメニュ 一の充実				
・オートバイ神社を設置しツーリング客を呼び込む(レストランのカフェ機能強			i			
化、記念グッズ販売)	<u> 1</u> 2	大な芝生を活り	用したイベントの			
・広大な芝生を活用したイベントの定期実施 <u>(月1回程度)</u>		定期実施(月1回)			
・専門性、企画力のある人材の確保・育成	! ! !	専門人材	地域おこし	協力隊等		
【山荘梶ヶ森】	! ! !	の確保	を導入した			
・夏、冬のそれぞれにおいて立地のメリットを生かし、天体観測などのターゲット						
を見据えた集客イベントの実施	<u>立地の</u> :	メリットを生かし! (月 1		実施		
・インバウンド(主に台湾)展示会等への現地出展による PR(年 3 回)	I I	!	!			
□県(地域本部)	I I I	インバウンド	(主に台湾)原	要示会等		
・PDCA サイクルによる目標達成に向けた進捗管理等	i I I		への出展			
・産振補助金等、各種助成制度の情報提供	i ! !	<u> </u>	i ! !	i i i		
施設整備	i !		i !	 		
■大豊町、指定管理者	ま明州の京					
【ゆとりすとパークおおとよ】	専門性の高					
・専門性の高い人材を確保し、広大な敷地を活用した、コンセプトの「風とあ	確保·施設					
そぶ」を体感できる魅力ある施設へのリニューアル【基本構想づくり】	<u>向性(基本</u>	<u>再思)束</u>	周辺イン	フラ・		
【山荘梶ヶ森】	定	1	施設整備	o O		
・冬期営業を可能とする周辺インフラ、施設整備の実施(水道設備の凍結防	1		実施			
止、施設までの利用客の移動手段確保など)	類似施設	の冬期				
□県(地域本部)	対策情報	収集				
・PDCA サイクルによる目標達成に向けた進捗管理等	I I	<u>'</u>				
・産振補助金等、各種助成制度の情報提供	1 1 1 1	1 1 1 4	I I I	 		
吉野川流域の周遊観光の促進	士熙川连起	の見所ある観光	と答消を活用し	- 国版組		
■大豊町、指定管理者、民間事業者等		<u> </u>				
・2 施設を核に吉野川流域の見所ある観光資源を活用した周遊観光の仕組	校(観光拠	点)→梶ヶ森	など)			
づくり、その売上を集約して雇用を創出する法人づくり			4m~~\b)			
・廃校を利用した観光拠点の整備を検討		雇用創出(受	け皿つくり)			

修正項目(案)

修正前

嶺北均	也域アクションプラ	ラン	分野	観光
()	AP 名 実施地域)	No.15 さめうら湖を核とした観光産業の振興 (土佐町)		
\$	実施主体	│ ◎土佐町、◎民間事業者等 │		
AP ·	への位置づけ	H21.4月		
į	事業概要	さめうら荘のさらなる魅力化とともに、湖面を活用した観光 ティ体験を提供することで、地域外からのさらなる観光客の記 畔に整備した拠点施設を中心に、カヌーをはじめとしたアウト や合宿誘致の取り組み等を通じて、嶺北地域全体の交流。	誘客を図る。 トドアスポーツ(また、さめうら湖 の競技力向上

→ +\ F ₂ \\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	これまでの主な動き	
主な取り組み	取り組みの内容	主な成果・課題
さめうら荘への誘客	・新さめうら荘グランドオープン(H31.4 月) ・顧客満足度向上に向けた取り組みの導入やスタッフのスキルアップ (R 元)→ 産振アドバイザー制度の活用 ・レストランメニューの充実 ・カヌー、SUP 体験をセットにした宿泊プランの提供	「成果」 ・カヌーや SUP 体験をセットにした宿泊プランの提供など、さめうら湖周辺の誘客増 ・カヌー拠点施設利用者R2:6,329人 → R4:12,152人 ・さめうらテントパークの段階的な整備(R3~)
さめうら湖を核とした スポーツツーリズムの 振興	・ハンガリー人のカヌー指導者の招聘(H29) ・カヌーのまち嶺北推進協議会設立(H29) ・カヌーアカデミーの実施(H29~) ・カヌー拠点施設の収支計画及びさめうら湖周辺整備基本計画の策定 (H30)→ 産振アドバイザー制度の活用 ・カヌー拠点施設完成、オープン(R2.9月) ・カヌー合宿の誘致 ・SUP、サイクリング等体験メニューの実施	[課題] ・さめうら荘の受入れ体制の強化 ・湖面を利用したアウトドアアクティビティ商品の充実・さめうら湖周辺のさらなる誘客及び嶺北地域の交流人口の拡大
さめうらテントパークの 整備	・第 1 期工事(R3) 宿泊棟 8 棟撤去し区画サイトを整備(電源付き) 車両用通路整備(大型 SUV 走行可能) 炊事棟、Wi-Fi 整備 ・第 2 期工事(R5) テントサイト増設(2 サイト)、管理棟の新設	

北 博	ш∞⊾		目標		
指標	出発点	R6	R7	R8	R9
(1)さめうら荘利用者数	18,902 人 (R4)				22,000 人
(2)カヌー拠点施設利用者数	12,152 人 (R4)				14,000 人
(3)さめうらテントパーク利 用者数	758 人 (R4)				2,800 人

第5期計画における行程表							
事業概要	R6	R7	R8	R9			
さめうら荘への誘客							
■土佐町、民間事業者等			りさらなる充った。				
・スタッフの接客スキルアップ	(X	タッノの接答。	スキルアップミ	寺)			
・レストランメニューのさらなる充実	1.7	. => ./ ==	0±0±73				
・魅力ある自然体験プログラム商品のさらなる造成及び宿泊プラントのセットに	レス	トフンメ <u>ー</u> ユ-	-のさらなる 3 -	心美			
よる誘客	魅力	ある休騒プロ	コグラムの造	成.			
・SNS 等を活用したさめうら湖周辺の効果的なプロモーション、土佐れいほく観			ュックムの <i>達</i> が とットによる誘				
光協議会と連携した情報発信			 				
□県(地域本部等)	告	坐活動 . 信:	報発信の強化	Y			
・PDCA サイクルによる目標達成に向けた進捗管理等(以下同じ)		未心到 旧:		:			
・さめうら荘の機能強化に向けた産業振興アドバイザーの活用提案、関係機		i I I	i !	i I I			
関への橋渡し、各種支援制度に関する情報提供		i ! !	i 	i 			
さめうら湖を核としたスポーツツーリズムの振興		i I	i i	i			
■土佐町、民間事業者等	スポーツイベントや競技大会等の誘致			D誘致			
・カヌー全国大会等湖面を利用したスポーツイベントや競技大会等の誘致		I I	!				
・スポーツ合宿の誘致校数の増		スポーツ合	- ウェス・マン・マン・マン・マン・ス・マン・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス				
・カヌーやサイクリングを中心とした観光客向けアクティビティ商品の磨き上げ		スホーット					
・嶺北地域の食や町並みなど観光素材を組み合わせたツアーの造成		i	i				
・とさんぽ掲載のアクティビティの充実	アクティビ	ティ商品等	のさらなる磨	き上げ・			
□県(地域本部等)		造	成				
・関係機関への橋渡し、県内の市町村との連携支援		I I I	I I I	 			
・各種アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供		: 		: : :			
		: 	i !	: : : :			
さめうらテントパークの整備		; 	; !	i i !			
■土佐町		!	!				
・第3期工事の実施(RV パーク、テントサウナ等の整備)		施設團	と備				
□県(地域本部等)		78021					
・関係機関へ橋渡し、各種支援制度に関する情報提供		1		1			
		I I I		1 1 1			



嶺北地域アクションプ	ラン	分野	観光
AP 名 (実施地域)	No.15 さめうら湖を核とした観光産業の振興 (土佐町)		
実施主体	◎土佐町、◎民間事業者等		
AP への位置づけ	H21.4月		
事業概要	さめうら荘のさらなる魅力化とともに、湖面を活用した観光 ティ体験を提供することで、地域外からのさらなる観光客の 畔に整備した拠点施設を中心に、カヌーをはじめとしたアウ や合宿誘致の取り組み等を通じて、嶺北地域全体の交流。 こうした取り組みを通じて、観光拠点として継続して成長 の雇用の受け皿づくりを進める。	誘客を図る。 トドアスポーツの 人口の拡大に	また、さめうら湖の競技力向上でなげる。

	これまでの主な動き	
主な取り組み	取り組みの内容	主な成果・課題
さめうら荘への誘客	 ・新さめうら荘グランドオープン(H31.4月) ・顧客満足度向上に向けた取り組みの導入やスタッフのスキルアップ (R元) → 産振アドバイザー制度の活用 ・レストランメニューの充実 ・カヌー、SUP体験をセットにした宿泊プランの提供 	「成果」 ・カヌーや SUP 体験をセットにした宿泊プランの提供など、さめうら湖周辺の誘客増 ・カヌー拠点施設利用者R2:6,329人 → R5:13,870人 ・さめうらテントパークの段階的な整備(R3~)
	・ハンガリー人のカヌー指導者の招聘(H29) ・カヌーのまち嶺北推進協議会設立(H29) ・カヌーアカデミーの実施(H29~) ・カヌー拠点施設の収支計画及びさめうら湖周辺整備基本計画の策定 (H30) → 産振アドバイザー制度の活用 ・カヌー拠点施設完成、オープン(R2.9月) ・カヌー合宿の誘致 ・SUP、サイクリング等体験メニューの実施	各種イベント等の連携強化及び売上の集約 ・カヌー等のスポーツのメッカと言われるほどの知名度の
さめうらテントパークの整備 人材確保、育成	 ・第1期工事(R3) 区画サイト整備、車両用通路整備、炊事棟、Wi-Fi 整備 ・第2期工事(R5) テントサイト増設(2サイト)、管理棟新設 ・特定地域づくり事業協同組合設立に向けた準備(R6) 	<u>向上</u> ・さめうら湖周辺のさらなる 誘客と嶺北地域の交流人口の拡大

松柵	ш ж . ⊨	実績			目標
指標	出発点	R6	R7	R8	R9
(1)さめうら荘利用者数	18,902 人 (R4)				22,000 人
(2)カヌー拠点施設利用者 数	12,152 人 (R4)				14,000 人
(3)さめうらテントパーク利 用者数	758 人 (R4)				2,800 人
<u>(4)売上高増</u>	=				13,000 千円
(5)雇用創出数	=				1人

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・							
事業概要	R6	R7	R8	R9			
さめうら荘への誘客 ■土佐町、民間事業者等 ・魅力ある自然体験プログラム商品のさらなる造成による客単価アップ ・とさんぽ掲載のアクティビティの充実及び宿泊プランとの連携 ・嶺北地域の食や町並みなど観光素材を組み合わせたツアー造成 ・SNS 等を活用した効果的なプロモーション、土佐れいほく観光協議会と連携 した情報発信 □県(地域本部等)	宿泊 レス 受(コプランとのセ トランメニュー け入れ体制の タッフの接客	コグラムの造 マットによる誘 ーのさらなる3 のさらなる充 スキルアップ	充実			
 □県(地域本部等) ・PDCA サイクルによる目標達成に向けた進捗管理等(以下同じ) ・各種アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供 さめうら湖を核としたスポーツツーリズムの振興 ■土佐町、民間事業者等 ・湖面を利用したスポーツイベントや競技大会の誘致強化 ・スポーツ合宿の誘致 ・カヌーやサイクリングを中心とした観光客向けアクティビティ商品の磨き上げ ・さめうら荘宿泊者をターゲットとした体験プログラムを造成 □県(地域本部等) ・関係機関への橋渡し、県内の市町村との連携支援 		業活動・情報 ツイベントやう スポーツ合	服発信の強(開発を 開発を 開発を 開発を 開発を 関係を 関係を 関係を 関係を 関係を 関係を 関係を 関係を 関係を 関係	の誘致			
・各種アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供 さめうらテントパークの整備 ■ 土佐町 ・第3期工事の実施(RVパークの整備) 人材確保、育成 ■土佐町、民間事業者等 ・新たな雇用創出に向けた、収益力の強化 ・特定地域づくり事業協同組合を活用した人材の確保	施設	<u>0</u> 特定地域	につながるデ D仕組み作り でくり事業協用した人材を	協同組合			

修正項目(案)

修正前

		75 1	וַנ
AP 名 (実施地域)	No.16 土佐町石原地区の地域資源を活用した地域活 (土佐町)	针性化	
実施主体	◎ 合同会社いしはらの里、◎ (株)いしはらキッチン、◎ 有 ン、いしはらの里協議会、土佐町	限責任事業	組合トサイチョ
AP への位置づけ	H28.4 月		
事業概要	土佐町石原地域の資源をフル活用した稼げる仕組みを 皿となる仕事を確保するとともに、収益を活用してプラスア し、あらゆる世代の者にとって暮らしやすい地域づくりを進める	ルファの住民せ	

→ +> Ha M	これまでの主な動き	
主な取り組み	取り組みの内容	主な成果・課題
交流人口の拡大・ 宿泊施設の整備・運 営	・簡易宿泊所(木の家)の整備(H28) → 集落活動センター推進事業費補助金(経済拡充支援事業) の活用 ・休校となった旧石原小学校を利用した宿泊施設の整備(R元) → 集落活動センター推進事業費補助金(基幹ビジネス支援事業)の活用 ・自然体験型プログラムの実施(アメゴの掴み取り、バームクーヘン作り体験など) ・県内外の小中高校生の修学旅行の受け入れ	 【成果】 ・宿泊者数が増加 R2:352人 → R4:562人 ・体験メニュー受入れが増加 R2:490人 → R4:1,140人
地域資源の活用	・加工品販売事業 山のラー油販売開始(R3~) 高知家のうまいもの大賞 2022「高知家賞」受賞 法人設立(R5)→ (株)いしはらキッチン ・さとのみせ 営業開始(H25~) リニューアルオープン(R5) ・やまさとの市 営業開始(H26~) ・林業 団体設立(R5 年 1 月)→ 有限責任事業組合トサイチョン	・宿泊事業や加工品製造販売など、石原地域全体で稼ぐ仕組みは出来つつある。 「課題」 ・加工品の販路拡大・「さとのみせ」及び「やまさとの市」の収益力強化・関散期の宿泊者増、・開散期の宿泊者が発化・地元出りまる。 ・地域へ以は身子が発化・地域へ以はターンするため、を利力にある。 ・関係を安定して伸ばするとが必要。

七抽	ılı 5% 1⊨	実績			目標
指標	出発点	R6	R7	R8	R9
(1)宿泊·交流事業売上 高	598 万円 (R4)				900 万円
(2)さとのみせ、やまさとの市売上高	1,372 万円 (R4)				2,500 万円
(3) (株) いしはらキッチン 加工品販売額	1,500 万円 (R5 見込)				3,000 万円
(4)トサイチヨン売上高	100 万円 (R5 見込)				1,500 万円





嶺北地域アクションプラン その他

AP 名 (実施地域)	No.16 土佐町石原地区の地域資源を活用した地域活性化 (土佐町)
実施主体	◎ 合同会社いしはらの里、◎ (株)いしはらキッチン、◎ 有限責任事業組合トサイチョン、いしはらの里協議会、土佐町
AP への位置づけ	H28.4 月
事業概要	土佐町石原地域の資源をフル活用した稼げる仕組みを構築し、UI ターン者の受け 皿となる仕事を確保するとともに、収益を活用してプラスアルファの住民サービスを展開 し、あらゆる世代の者にとって暮らしやすい地域づくりを進める。

- + T- 10 (F) =	これまでの主な動き	
主な取り組み	取り組みの内容	主な成果・課題
交流人口の拡大・ 宿泊施設の整備・運 営	・簡易宿泊所(木の家)の整備(H28) → 集落活動センター推進事業費補助金(経済拡充支援事業)の活用 ・休校となった旧石原小学校を利用した宿泊施設の整備(R元) → 集落活動センター推進事業費補助金(基幹ビジネス支援事業)の活用 ・自然体験型プログラムの実施(アメゴの掴み取り、バームクーヘン作り体験など) ・県内外の小中高校生の修学旅行の受け入れ	「成果」 ・宿泊者数が増加 R2:352人 → R5:751人 ・体験メニュー受入れが増加 R2:490人 → R5:1,193人
地域資源の活用	・加工品販売事業 山のラー油販売開始(R3~) 高知家のうまいもの大賞 2022「高知家賞」受賞 法人設立(R5)→ (株)いしはらキッチン 事業戦略策定セミナー(県地産地消外商課所管)を受講し事業 戦略策定(R6) 商品改良や販売手法改善に向けた行動計画策定(R6) → 産振アドバイザー制度の活用 新商品(ちびから)販売開始(R6.5~) ・さとのみせ 営業開始(H25~) リニューアルオープン(R5) ・やまさとの市 営業開始(H26~) ・林業 団体設立(R5年1月)→ 有限責任事業組合トサイチョン	・宿泊事業や加工品製造販売など、石原地域全体で稼ぐ仕組みは出来つつある。 【課題】 ・加工品の販路拡大・「さとのみせ」及び「やまさとの市」の収益力強化・関散期の宿泊者増、体験メニューのブラッシュアップ・(株)いしはらキッチンの新加工場整備・林業の収益力強化・地元出身者が就職者が、あるいは県外在住者が地域へUIターンするための雇用の受け皿を確固たるものとするため、各種事業の売上げを安定して伸ばすことが必要

七海	ш∞⊾			目標	
指標	出発点	R6	R7	R8	R9
(1)宿泊·交流事業売上 高	598 万円 (R4)				900 万円
(2)さとのみせ、やまさとの市売上高	1,372万円 (R4)				2,500 万円
(3) (株) いしはらキッチン 加工品販売額	1,500 万円 (R5 見込)				3,000 万円
(4)トサイチヨン売上高	100 万円 (R5 見込)				1,500 万円



分野	観光				
実施主体	◎(一社)土佐れいほ<観光協議会、 ・本山町 ・大豊町 ・土佐町 ・大川村				
APへの位置付け	H21.4月				

第5期(R6~R9)						= 1 / 1 × ×
指標	出発点 (R5見込)	R6実績 (4月~11月)	R6目標	R7目標	R9目標	評価 ※ (達成率)
主要観光施設の 入込数	385,343人	277,613人	395,900人	407,252人	429,420人	A (105.2%)
主要宿泊施設の 宿泊者数	27,582人	18,882人	28,700人	30,000人	35,300人	B (98.7%)
主要観光·宿泊施設 消費額	512,436千円	375,754千円	545,407千円	587,196千円	715,995千円	A (103.3%)

※R6(目標)に対するR6(実績)の達成状況 S:110%以上 A:100%以上110%未満 B:85%以上100%未満 C:70%以上85%未満 D:70%未満

事業概要

(一社)土佐れいほく観光協議会を中心に、嶺北地域の自然、歴史、文化、暮らしなどの多様な地域資源を生かした、訴求力のある旅行商品の造成を進めるとともに、ターゲットに応じた的確な情報発信等マーケティング活動を強化し、嶺北地域の観光地としての知名度を高め交流人口の拡大を図ることで、観光産業の「稼ぐ力」を培い、地域経済の活性化を目指す。

主なスケジュール	R6	R7	R8	R9
宿泊旅行・日帰り旅行 の誘客推進	 各観光施設の 	磨き上げ・シーズン展開を見	据えたイベントの開催 等	
の訪合推進				
周遊促進の仕組み づくり	ガイド等の人材育成・	近隣地域(徳島県三好エリア	、仁淀川エリア、西条市等)。	と連携した情報発信等

現状と課題

【現状】

- (1)宿泊旅行の誘客推進
- ・春の「体験博覧会れいほくる。」にて宿泊優待券を配布
- (2)日帰り旅行の誘客推進
- ・「土佐の豊穣祭in嶺北」の開催 →集客数約2,300人 対前年比135%
- (3)国内外の教育旅行の誘致推進及び受入促進
 - ·教育旅行誘致 54校·5,372人(R5:81校·8,288人)
- (4)周遊促進の仕組みづくり
- ・近隣地域(徳島県三好エリア、仁淀川エリア、西条市など)の 広域観光組織等との連携に着手
- (5) DM Oとしてのマーケティング機能の発揮
- ・土佐れいほく観光協議会による土日祝日の観光窓口開設
- ・エリア満足度調査の継続実施
- →アンケート回答数(11月末)245 (R5実績365) リピーター率:82.9% (R5:74.3%)

【課題】

- ・観光資源の磨き上げ、ブランドイメージの確立
- ・シーズン展開を見据えたイベントの開催
- ・教育旅行における受入家庭確保のための支援強化

R7年度 (第5期ver.2)における取り組みの内容

拡 (1)宿泊旅行の誘客推進

- ・各観光施設の磨き上げによる魅力度の向上
 - →「モンベル」の体験メニュー、「ゆとりすと」の雲海、「早明浦ダム」におけるインフラツーリズム、「白滝の里」における遺構資源等を 活用した商品開発など
- ・シーズン展開を見据えたイベントの開催
 - →春の「花」、夏の「アクティビティ」、秋の「食」、冬の「雲海、イルミネーション」など

拡(2)日帰り旅行の誘客推進

・体験博覧会「れいほくる。」、「土佐の豊穣祭in嶺北」などのイベントの他、さめうら湖やアウトドア拠点施設等を活用した嶺北ならではの体験プログラムの開発・磨き上げによるわざわざ嶺北に来る仕掛けづくり

拡(3)国内外の教育旅行の誘致推進及び受入促進

- ・民泊受入家庭の開拓(紹介キャンペーンの実施、過去受入実績のある家庭の再稼働を電話・訪問により推進)
- ・他組織が対応しきれない教育旅行の民泊・体験の受け皿として連携をより深め、国内外の教育旅行の誘致を推進

拡 (4)周遊促進の仕組みづくり

- ・インバウンドや閑散期向けの魅力ある商品造成への支援及びガイド等の人材育成
- ・近隣地域(仁淀川エリア、徳島県三好エリア、西条市など)と連携した情報発信、ガイド養成等

(5)DMOとしてのマーケティング機能の発揮

・エリア満足度調査の分析・フィードバック、デジタルデータ等を活用した分析による打ち手の構築

[重点] APNo.12 アウトドアヴィレッジもとやまを核とした観光産業の振興

〈嶺北地域本部〉

分野	観光				
実施主体	◎本山町、◎民間事業者				
APへの位置付け	H28.4月				

	第5期(R6~R9)						=11 /12 >> 4
	指標	出発点 (R4)	R6実績 (4月~12月)	R6目標	R7目標	R9目標	評価※1 (達成率)
	アウトドアヴィレッジもとやまの 利用者数	51,191人	33,179人	52,000人	54,000人	58,000人	B (85.1%)
	アウトドアヴィレッジもとやまの 売上高増※2	_	_	_	8,000千円	25,000千円	_
新	アウトドアヴィレッジもとやまの 雇用創出数	_	_	_	_	2人	_

※1:R6(目標)に対するR6(実績)の達成状況 S:110%以上 A:100%以上110%未満 B:85%以上100%未満 C:70%以上85%未満 D:70%未満

※2:平均年収500万円、人件費比率40%で試算

事業概要

地域ならではの豊かな自然や食、歴史、文化等を活用した魅力ある体験プログラム造成や閑散期対策を強化するとともに、「アウトドアヴィレッジもとやま」に売上が集約できる仕組みづくりを進めることで、若者が魅力を感じる雇用の受け皿を整備する。

また、こうした取り組みを通じて、地域への誘客を促進し、交流人口の拡大による地域経済の活性化を図る。

主なスケジュール	R6	R7	R8	R9
利用者数及び売上の 増	・商品の造成、磨き上 ・閑散期対策の強化 ・情報発信、営業活動			*
雇用創出に向けた拠点 施設への売上集約	·戦略、言	画の作成 ・関係者調整、合意形成	•雇用、人材育成 ——	•

現状と課題

【現状】

- ・関係機関による営業戦略会議において、現状分析・課題整理を 行い、増客に向けた取組方策を確認(6月、7月に開催)
- ・インバウンド商品の検討→県観光コンベンション協会主催のクルーズ船モニターツアーコースに「吉延の棚田散策+おむすび作り体験」が採用(1/15~17)
- ・どっぷり高知旅の商品造成について、汗見川エリアの閑散期向け 商品を検討中
- ・体験ツアー 54回 397人参加(R4~R6.12月末)
- ・ガイド養成講座 39回 236人参加(R2~R6.12月末)

【課題】

- ・交流人口の拡大による観光消費額が拠点施設等へ集約され、 雇用につながっていく仕組みの構築
- ・若年層の新規雇用を前提とした、売上目標の設定
- ・インバウンドや閑散期($4\sim6$ 月、 $12\sim2$ 月)の利用者増に向けた商品の検討

R7年度 (第5期ver.2)における取り組みの内容

アウトドア拠点施設(アウトドアヴィレッジもとやま)の運営・誘客

(1)利用者数及び売上の増

- ①ハイシーズンの客単価アップによる収入増
- ・宿泊客向けオプショナルツアーの造成
- ・BBQ等の単価アップ など
- ②閑散期(4~6月、12~2月)の利用者増による売上増
- ・クルーズ船利用者(外国人)をターゲットにした、棚田や野菜収穫等、地域の魅力を生かした商品づくり
- ・学生合宿、企業研修等のプラン検討
- ・土佐れいほく観光協議会と連携した情報発信・営業活動

(2)雇用創出に向けた拠点施設への売上集約

- 新 ① アウトドアヴィレッジもとやまに売上が集約できる仕組みづくり
 - ・体験プログラム等の受付ワンストップ化に向けた関係者間の調整、合意形成
- 新 ②人材供給の仕組みづくり
 - ・若者が魅力に感じる雇用条件の整備
 - ・単価アップや閑散期対策に取り組む人材確保
 - ・上記に対応するため、特定地域づくり事業協同組合設立の検討(事業者ニーズ調査及び設立に向けた協議開始)
 - ③アウトドアヴィレッジもとやまの取組方針等策定
 - ・上記取り組みを一体的かつ効率的に進めるため、営業戦略会議において取組方針を策定

「重点」APNo.13 ゆとりすとパークおおとよ・山荘梶ヶ森を核に吉野川流域の観光資源を活用した周遊観光の仕組みづくり

<嶺北地域本部>

分野	観光
実施主体	◎大豊町、◎指定管理者、◎民間事業者等
APへの位置付け	R6.4月

第5期(R6~R9)						
指標	出発点 (R4)	R6実績 (4月~11月)	R6目標	R7目標	R9目標	評価※1 (達成率)
入込数 (パーク) (山 荘)	23,321人 1,133人	12,940人 1,656人	24,240人 1,174人	25,159人 1,215人	27,000人 1,300人	C (80.1%) S (211.6%)
売上高増(2施設計) ※ 2	-	_	-	8,000千円	25,000千円	_
雇用創出数(2施設計)	_	_	_	_	2人	_

※1:R6(目標)に対するR6(実績)の達成状況 **S**:110%以上 **A**:100%以上110%未満 **B**:85%以上100%未満 **C**:70%以上85%未満 **D**:70%未満 **※**2:平均年収500万円、人件費比率40%で試算

事業概要

大豊町の2大観光施設である「ゆとりすとパークおおとよ」、「山荘梶ヶ森」それぞれの施設がポテンシャルを生かした観光コンテンツを造成するなど、両施設の再活性化を図る。

また、両施設を核に、吉野川流域の見所ある観光資源を活用した周遊観光を促進し売上増を進め、若者が魅力を感じる雇用の受け皿として整備する。

主なスケジュール	R6	R7	R8	R9
集客促進・施設の魅力向上	・集客イベントの実施 ・レストランの充実強化 (パーク)	・基本構想づくり(パーク) ・オートバイ神社の整備(パーク)		
法人への売上集約・雇用の創出	・売上集約に係る関係者合意形成			・雇用

現状と課題

【現状】

<ゆとりすとパークおおとよ>

・GWにおける集客イベントの実施 (懐かしい掘り出し物が見つかる「ガラクタ市」、昔遊びやゲーム楽しむ子供向けイベント等)

<山荘梶ヶ森>

・集客イベントの実施 (ファンミーティング、山頂わら焼き体験、水鉄砲等子供向け イベント等)

【課題】

<ゆとりすとパークおおとよ>

- ・コンセプト「風と遊ぶ」を体感できるような施設としてのリニューアル に向けた専門人材の確保
- ・広大な施設を活用したイベントを定期的に実施できるよう企画 力のあるスタッフを確保するとともに、必要となる予算の確保

<山荘梶ヶ森>

・通年営業に向けたインフラ整備(冬季対策)

R7年度 (第5期ver.2)における取り組みの内容

拡 (1)集客促進

<ゆとりすとパークおおとよ>

- ・オートバイ神社の設置によるツーリング客の集客及び来訪者にお金を使ってもらえる仕組みづくり
 - → レストランのカフェ機能強化及び通年営業に向けた体制整備
 - → キーホルダー等記念グッズ販売
- ・イベントの企画・運営を担うスタッフの配置及び広大な芝生を活用した集客イベントの実施(月1回定期的に開催等)

<山荘梶ヶ森>

- ・立地のメリットを生かした客単価アップにつながる集客イベント(天体観測や観月イベント等)の実施
- ・インバウンド(主に台湾)展示会等への現地出展(年3回)

拡 (2)施設の魅力向上

〈ゆとりすとパークおおとよ〉

- ・テーマパークの開発実績がある等、専門性の高い人材を確保
- ・広大な敷地に花を植える等、多世代の誘客につながる魅力的な施設へと復活させるための基本構想を策定

<山荘梶ヶ森>

・冬季営業を可能とする周辺インフラ、施設整備の実施(水道設備の凍結防止、施設までの利用客の移動手段確保など)

新 (3)吉野川流域の周遊観光の促進

- ・上記の取り組みによって2施設を核に、吉野川流域の見所ある観光資源を活用した周遊観光の仕組みづくり (ゆとりすと→国宝→お宝館→定福寺→博物館→海洋堂)
- ・その売上を集約して雇用を創出する法人づくりを進め、若者の雇用の受皿を整備
- ・廃校を利用した観光拠点の整備を検討

分野	観光				
実施主体	◎土佐町、◎民間事業者等				
APへの位置付け	H21.4月				

第5期(R6~R9)						
指標	出発点 (R4)	R6実績 (4月~11月)	R6目標	R7目標	R9目標	評価※3 (達成率)
利用者数(3施施設※1)	31,812人	26,668人	34,418人	35,879人	38,800人	S (116.2%)
新 売上高増(")※2	_	_	_	7,000千円	13,000千円	_
新雇用創出数(")	_	_	_	_	1人	_

※1: さめうら荘、カヌー拠点施設、さめうらテントパーク ※2: 平均年収500万円、人件費比率40%で試算

※3:R6(目標)に対するR6(実績)の達成状況 S:110%以上 A:100%以上110%未満 B:85%以上100%未満 C:70%以上85%未満 D:70%未満

主なスケジュール	R6	R7	R8	R9
さめうら荘への誘客	・体験プログラム造成、宿泊	プラン・レストランメニューの充実 ・スタッフの育成		
スポーツツーリズムの振興	・スポーツイベントや合宿、競	競技大会等の誘致 ————		-
新たな雇用の創出	・特定地域づくり事業 協同組合の設立準備	・組合設立 ・雇用条件整備→組合からの <i>)</i>	、材受入 ————————————————————————————————————	-

事業概要

さめうら荘のさらなる魅力化とともに、湖面を活用した観光客向けのアウトドアアクティビティ体験を提供することで、地域外からのさらなる観光客の誘客を図る。また、さめうら湖畔に整備した拠点施設を中心に、カヌーをはじめとしたアウトドアスポーツの競技力向上や合宿誘致の取り組みを通じて、嶺北地域全体の交流人口の拡大につなげる。

こうした取り組みを通じて、観光拠点として継続して成長する仕組みをつくり、若年層の雇用の受け皿づくりを進める。

現状と課題

【現状】

- (1)さめうら荘への誘客
- ・土佐町役場観光コーディネーターによる、ツアー造成及び現地アテンド 早明浦ダムインフラツーリズム:実施件数:57件、参加者1,493人、 観光経済効果:14,012千円
 - 【参考】R5土佐町ツアー総数:164件、参加者:5,545人
- (2)さめうら湖を核としたスポーツツーリズムの振興
- ・カヌー・SUP等のイベント開催によるさめうら湖への誘客 (R6イベント 実施回数:9回、参加者:984人)
- (3)さめうらテントパークの整備
- ·第2期工事(R6.9完了)

テントサイト増設(2サイト)、管理棟の新設

第3期工事(R7へ繰越し)

RVパーク整備

(全11サイト稼働率30.4%(R5.9~R6.8))

- <土佐の里山めぐり体験博「とさんぽ2024」開催>
- ・8/1~10/31の期間に、全29プログラムを開催 (売上 231人、 1,107,500円)

【課題】

- ・若年層や新卒者の雇用の受け皿につなげるため、各種イベント等の連携 強化及び売上の集約
- ・カヌー等のスポーツのメッカと言われるほどの知名度の向上
- ・さめうら湖周辺のさらなる誘客と嶺北地域の交流人口の拡大

R7年度 (第5期ver.2)における取り組みの内容

(1)さめうら荘への誘客

- ・魅力ある自然体験プログラム商品のさらなる造成による客単価アップ
 →どっぷり高知旅キャンペーン、早明浦ダムインフラツーリズム、連続テレビ小説「あんぱん」との連携
- ・とさんぽ掲載のアクティビティの充実及び宿泊プランとの連携
- ・嶺北地域の食や町並みなど観光素材を組み合わせたツアーを造成し、新たな顧客層の取り込みを推進
- ・(2)の体験プログラムとの連携強化→宿泊とのセット販売を推進
- ・SNS等を活用したさめうら湖周辺の効果的なプロモーション、土佐れいほく観光協議会と連携した情報発信

(2)さめうら湖を核としたスポーツツーリズムの振興

- ・カヌー全国大会等湖面を利用したスポーツイベントや競技大会の誘致を強化(R5:0件→R7:2件)
- ・スポーツ合宿の誘致(R5:1校→R7:3校)
- ・カヌーやサイクリングを中心とした観光客向けアクティビティ商品の磨き上げ(件数及び回数増)
- ・さめうら荘宿泊者をターゲットとした体験プログラムを造成→宿泊とのセット販売を推進

(3)さめうらテントパークの整備・・・・第3期工事の実施(RVパークの整備)

新(4)人材確保、育成

- ・新たな雇用創出に向けた、収益力の強化(入込数及び客単価アップ、売上の集約)
- ・特定地域づくり事業協同組合(R7開設予定)を活用した、人材確保(地域おこし協力隊卒業生等)

分野	その他	
実施主体	○合同会社いしはらの里、○(株)いしはらキッチン、○有限責任事業組合トサイチョン、いしはらの里協議会、土佐町	
APへの位置付け	H28.4月	

	第5期(R6~R9)					= □ / エ ∨/	
指標	出発点 (R4)	R6実績 (4月~11月)	R6目標	R7目標	R9目標	評価※ (達成率)	
宿泊·交流事業 売上高	598万円	558.2万円	675万円	750万円	900万円	S (124.0%)	
さとのみせ、やまさとの市 売上高	1,372万円	2,087.6万円	1,825万円	2,050万円	2,500万円	S (171.6%)	
(株)いしはらキッチン 加工品販売額	1,500万円 (R5見込)	1,086.7万円	1,875万円	2,250万円	3,000万円	B (86.9%)	
トサイチヨン売上高	100万円 (R5見込)	365.8万円	200万円	400万円	1,500万円	S (274.4%)	

※R6(目標)に対するR6(実績)の達成状況 S:110%以上 A:100%以上110%未満 B:85%以上100%未満 C:70%以上85%未満 D:70%未満

事業概要

土佐町石原地域の資源をフル活用した稼げる仕組みを構築し、UIターン者の受け皿となる仕事を確保するとともに、収益を活用してプラスアルファの住民サービスを展開し、あらゆる世代の者にとって暮らしやすい地域づくりを進める。

主なスケジュール	R6	R7	R8	R9
宿泊交流事業の強化	・どっぷり高知旅ッ	アーの拡充及び体験プログラム	の造成→四半期毎に1件	
さとのみせ、やまさとの市の 収益力及び利便性向上	・機能強化・施設整備方象	針の策定 ———	・方針に沿った施設整備等	の実施
加工品の販路拡大 及び売上増	・事業戦略策定 ・新商品開発、営業活動の	・加工場整備の検討 の強化	・加工場整備	-
稼げる林業の体制構築	・地域おこし協力隊卒業会	上の定着 ・機械導入の検討		-

現状と課題

【現状】

- (1)宿泊・交流事業の強化
- ・体験プログラムの受入(4~11月実績:42件、1,010人、3,049千円)
- ・どっぷり高知旅ツアーを造成、モニターツアーを実施(参加者15名、@15,500円)
- ・役場観光コーディネーターによるツアーの販促
- (2)さとのみせ(店舗)、やまさとの市(直販所)の収益力及び利便性向上
- ・商い部会で、さとのみせ・やまさとの市の現状分析を行い、経営改善の方向性を整理(3)(株)いしはらキッチンの売上増
- ・新商品(山の辣油ちびから)の販売開始
- ・産振アドバイザー制度及び事業戦略策定支援制度の活用により、加工品の事業 戦略・行動計画を策定
- (4)稼げる林業の体制構築
- ・LLPにおいて地域おこし協力隊(林業)4名を育成指導中

【課題】

- ・閑散期の利用者増に向けた取り組みの検討(8月のみで年間の32%)
- ・平均単価(宿泊4,390円、体験2,550円)の増額に向けた、商品のブラッシュアップ
- ・さとのみせの経営改善及びやまさとの市運営にかかる人員体制の確保
- ・加工場整備に向けた事業計画作成(コスト試算、新商品開発)

R7年度 (第5期ver.2)における取り組みの内容

(1)交流人口の拡大・宿泊施設の整備・運営

- ①宿泊・交流事業の強化
- ・どっぷり高知旅ツアー(大人の修学旅行/山里体験)をブラッシュアップ(料金見直し含む)し、各期1件以上を催行
- ・大学休み期間である9月、2月、3月に合宿を誘致できるよう、体育館等の活用方法を検討しスポーツ団体等へ売り込み
- ・木の家の体験プログラムの造成(テントサウナ、グランピングの検討)及び、木の家の新たな整備方針の結論出し

(2)地域資源の活用

- ①さとのみせ(店舗)、やまさとの市(直販所)の収益力及び利便性向上
- ・さとのみせの経営改善(取扱商品及び在庫管理の見直し、共同購入・オンライン購入の検討)
- ・やまさとの市及びさとのみせの整備方針の策定(調理設備、トイレ、駐車場等)
- ②加工品の販路拡大及び売上増(いしはらキッチン)
- ・新商品開発及び販路拡大に向けた取り組み強化→R7産振補助金(ステップアップ事業)を活用予定
- ・令和8年度の加工場整備に向けた事業計画策定→R8整備は産振補助金(一般事業)を活用予定
- ③稼げる林業の体制構築
- ・地域おこし協力隊の育成及び切り捨て等受託業務の増
- ・製材・加工等による収益力向上の検討(機械類導入の検討)